



Mission: Engineering for Sustainable Growth of the Global Community

Vision: Global Leading Engineering Partner

Values: Integrity, Creativity, Diversity, Learning, Team

再建計画

－ 持続的成長軌道への復帰 －

2015年5月14日

東洋エンジニアリング株式会社

1. 2015年3月期通期業績
2. ブラジル損失内容と今後の対応
3. プロジェクト損失の共通原因
4. 経営方針
5. リスク管理体制の強化
6. 収支目標

1. 2015年3月期通期業績

- ◆ 3Q時点見込から大幅悪化し209億円の当期損失計上
 ブラジル持分法関連会社の損失： 230億円
 (プロジェクト損失167億円、固定資産減損55億円、のれん減損8億円)

(単位:億円)

	3Q通期見込	決算	差異
売上高	3,300	3,114	△ 186
売上総利益	180	172	△ 8
売上総利益率	5.5%	5.5%	0.0%
営業利益	△ 70	△ 73	△ 3
営業利益率	△ 2.1%	△ 2.4%	△ 0.3%
経常利益	△ 40	△ 252	△ 212
当期純利益	0	△ 209	△ 209
受注高	5,000	4,703	△ 297

- ◆ 期末配当見送り(中間期は4円配当済み)

2. ブラジル損失内容と今後の対応(1)

◆ FPSO トップサイドプロジェクト(P-74)損失

➤ 主な損失理由:

- ① 客先提供FEED内容の不備
- ② 契約変更に関する客先決定の遅れ
- ③ プロポーザル時のリスク評価の甘さ

➤ 急激な収支悪化理由:

設計変更および改訂工期等の客先決定が2015年2月までずれ込み、コストが増加

➤ 反省点:

持分法関連会社のプロジェクト管理能力に対する認識不足、
同社に対するガバナンスの実効性確保の問題

2. ブラジル損失内容と今後の対応(2)

◆ ヤード資産の減損

- ペトロブラス(ブラジル)の投資動向を勘案し、ヤード事業計画を見直し

◆ 今後の対応

- 社長直轄ブラジル対策タスクチームを設置
- 現地体制強化(本社要員派遣拡大)
- リスク管理強化、追加獲得交渉
- マーケット状況変化を注視し慎重に対応



3. プロジェクト損失の共通原因

- ◆ 受注不振の時期に無理な受注
- ◆ プロポーザル時のリスク評価の甘さ
- ◆ プロジェクトのキーパーソン制約
- ◆ 分散型のプロジェクト管理の問題

◆ 経営の改革

- 1) 経営の意識改革
- 2) 経営会議体の刷新
- 3) グループ運営体制強化

◆ 受注プロセスの改革

- 4) バランスの取れた受注活動
- 5) プロポーザル承認プロセス改善
- 6) プロポーザル品質の向上

◆ プロジェクト遂行の改革

- 7) マルチオフィスプロジェクト遂行力強化
- 8) 大規模プロジェクト対応強化
- 9) プロジェクト人材強化

◆ 企業文化の変革

- 10) 全方位コミュニケーション運動

5. リスク管理体制の強化

◆ 経営会議体の刷新

- 事業戦略会議およびプロポーザル・プロジェクト対策会議の新設

◆ プロポーザル承認プロセス改善

- 案件毎戦略方針会議の充実
- オファー最終判断プロセスの導入：社長、CFO、経営管理担当役員、担当事業部門長の承認による、透明性と牽制機能の確保

◆ プロジェクト・リスク管理体制

- 四半期毎の成果管理に加え、月次でのプロジェクト成果状況の把握

◆ グループ会社・リスク管理体制

- グループ経営企画本部新設、およびグループ運営委員会の設置

◆ 第三者によるリスク管理体制の検証

6. 収支目標

- ◆ 手持ち案件の確実な遂行、経費削減の実施、案件の選別受注等により、収益を回復

(単位:億円)

	2015年度	2016年度	2017年度
受注	3,300	3,500	3,500
売上高	3,400	4,900	4,500
売上総利益	270	340	330
売上総利益率	7.9%	6.9%	7.3%
営業利益	25	100	80
営業利益率	0.7%	2.0%	1.8%
経常利益	45	110	90
当期純利益	30	70	60



東洋エンジニアリング株式会社

URL <http://www.toyo-eng.com>

【お問い合わせ】

〒275-0024 千葉県習志野市茜浜 2-8-1

広報・IR部長 佐藤研司

電話 047-454-1681

E-mail ir@toyo-eng.com

本資料に記載されている見通しや業績予想などのうち、歴史的事実でないものは現在入手可能な情報から得た当社の経営陣の判断にもとづき作成しております。実際の業績は、当社の事業領域を取り巻く国内および海外の経済・金融情勢等、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは異なる結果となりうる事をご承知おきください。